

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項

基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進		
施策	(1) 乳幼児		
施策の方向性	親子で読書を楽しむことで、語彙力や想像力、集中力を養うとともに親子のコミュニケーションを深めます。そのために家庭での読書や読み聞かせの大切さについて保護者へ啓発を行い、親子での読書活動の推進を図ります。また、図書館及び地域貸出文庫等で、絵本の読み聞かせや貸出を行います。共働き世帯が増加し、保護者と一緒に読書することが難しい乳幼児に対しても、保育所(園)・幼稚園等において読み聞かせを実施し、全ての子どもが本に出会う機会を提供します。		
主な取組	①絵本の紹介と保護者への啓発		
	②読み聞かせの推進		
	③絵本の貸出の実施		
成果指標	家庭での読み聞かせ実施率	策定時点	目標値(R9)
		86.7%	90.0%

D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)

評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	「Babyぱらら」「こぱらら」の発行	年間発行回数	12回	12回
	ブックスタート事業	年間実施回数	132回	132回
	図書館での対象年齢に応じたおはなし会	年間実施回数	106回	80回

主な取組の実施状況及び今後の方針 ◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	①絵本の紹介と保護者への啓発	達成状況
	◆図書館ではおはなし会やイベント情報、おすすめ本の紹介等を掲載した情報誌を発行しており、令和4年度からは幼児～小学生を対象とした「こぱらら」に加え、新たに赤ちゃんとその保護者を対象とした「Babyぱらら」の発行を年6回(1,000部/回)始めた。また読書週間には、館内に長く読み継がれている絵本の特集コーナーを設置するなど絵本の楽しさをPRした。来館されない方への働きかけが課題であるため、情報誌やチラシの配布等、館外に向けたPRも進めていく。 ◆市の母子保健事業(マタニティクラス、すくすく子育て教室、すこやか育児相談、3歳児集団健診等)や子育て支援事業(ブックスタート、絵本ライブラリー等)で、図書館が作成した赤ちゃん・乳幼児向けブックリストを配布した。妊娠期から絵本に関心がある人は少なく、親子でも絵本の関心度には個人差があるため、今後も絵本への関心が高まるよう、ブックリストの配布等の啓発を継続していく。	○
	②読み聞かせの推進	達成状況
	◆ブックスタート事業を132回実施し親子743組が参加したが、忙しくて参加できない家庭が多い(参加率70%)ため、参加者の増加に向け、他の子育て支援事業でもPRしていく。 ◆図書館ではコロナ対策(会場変更・不定期・時短・少人数等)を講じて、赤ちゃん向け(参加者703人)や幼児～小学生向け(参加者641名)のおはなし会を実施したが、不定期では参加者が定着しなかった。今後はコロナ前の実施方法に戻し、参加しやすく本を身近に感じてもらえるよう、工夫したい。 ◆地域貸出文庫では、読み聞かせをする館が16→20館/28館へ増えた。 ◆市の子育て支援事業(絵本ライブラリー、ぞうさんひろば、親子サロン等)では、読み聞かせ等を実施している。特に、令和4年度から絵本ライブラリーを親子サロンで開催したところ参加者が大幅に増加した(延べ1,166人)。コロナの影響により参加者が減っている事業があるため、増加に向けた取組が必要。 ◆子ども療育センターでは療育事業で毎回保育士が読み聞かせを行い、絵本への関心を広げる機会となった(延べ参加児童数1,599人)。 ◆全ての保育所(園)及び幼稚園で計画的に読み聞かせを行っている。	○

	<p>③絵本の貸出の実施</p> <p>◆図書館では、乳幼児連れの保護者等多様な利用者が気兼ねなく図書館を利用できるように、他の利用者に温かく見守るよう呼びかけるキッズタイム事業を検討中である。</p> <p>◆市の子育て支援事業（絵本ライブラリー、ぞうさんひろば、親子サロン等）で絵本の貸出を行った。コロナの影響により参加者が減っている事業があるため、増加に向けた取組が必要。</p> <p>◆コロナの影響等により、多くの保育所（園）や幼稚園が絵本の貸出を控えており、代替取組として絵本の紹介が行われている。</p>	<p>達成状況</p> <p style="text-align: center;">○</p>
<b>C 評価</b>		
<p>推進委員会 評価</p>	<p>問題なく実施されている。取組によって課題は見受けられるものの、各主体で今後の方針も考えられている。ぜひ記載されているとおりに継続して取り組んでほしい。</p>	
<p>検討が 必要な事項</p>	<p>なし</p>	
<b>A 改善</b>		
<p>改善に向け た取組等</p>	<p></p>	

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項

基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(2) 小・中学生			
施策の方向性	小学生は読書のきっかけづくりや読書の習慣の基礎をつくる重要な時期です。中学生になると、感動や共感を得たり、将来に役立つ本等を選んで読んだりするようになる一方で、読む子どもと読まない子どもの二極化が著しくなります。そのため、学齢が上がっても読書に対する興味・関心を持続させることができるように、子どもの主体的な活動や子どもたち同士で読書意欲を高め合う取組を行います。 また、家庭、地域、図書館、学校等、社会全体で読書活動を広げていくことができるよう、保護者への啓発及び家庭・学校以外の身近な場所でも子どもたちが読書に親しめる取組を行います。			
主な取組	①本の紹介	②読み聞かせ等の推進		
	③読書時間の確保	④読書活動の促進		
	⑤読書目標の設定	⑥調べ学習の促進		
	⑦保護者への啓発			
成果指標	1か月の読書率 ・小学2年生		策定時点 94.2%	目標値(R9) 98.0%
	・小学5年生		93.7%	98.0%
	・中学2年生		70.7%	75.0%

D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)

	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
評価指標	小学生読書リーダーの養成	年間講座回数	基礎講座3回 交流会1回	基礎講座3回 交流会1回
	図書館利用案内とブックリストの配布	発行ジャンル数	4	4
	「自由研究ひらめきカード」の発行	発行ジャンル数	13	17

主な取組の実施状況及び今後の方針	①本の紹介	達成状況
	<p>◆今後各学校において、学校図書室のおすすめ本コーナーの充実を図っていく。</p> <p>◆図書館ではおはなし会やイベント情報、おすすめ本の紹介等を掲載した情報誌を発行しており、子どもを対象とした「こぼらら」は、親しみやすいよう表紙にめいろなどのゲーム要素を設けるほか、書評を低・中・高学年に細分化して紹介する本の冊数を読み物と実用書の各2冊に増やした。各対象年齢のおはなし会での配布も開始し、発行回数・部数は年6回(1,200部/回)に増刷した。また、中学生など10代を対象とした「わいわいぱらら」は、子どもたちの読書活動の手掛かりとなるよう、刊行ごとに時節や季節感を意識した書評を中心に構成するとともに、担当者の実体験をもとにしたテーマを設け、読者が紙面をより身近に感じる工夫を行った。発行回数・部数は年4回(220部/回)。対象年齢が上がるにつれ、手に取られにくい傾向が見られるため、図書館の利用登録やおはなし会、各対象年齢の層に積極的に配布を行い、認知度を高めていく。</p> <p>◆図書館では①赤ちゃん向け②幼児向け③小学1～3年生向けの3種類のブックリストと、小学校1年生向けのおすすめの本リスト「よんでよんで」を発行している。今後は、小学校中学年～中学生向けのリストの発行を検討していく。</p>	○

②読み聞かせ等の推進	達成状況
<p>◆学校では、小学校7校、中学校2校で読み聞かせやブックトークを実施しているが、時間の確保やボランティア等との調整が課題となっている。ランドセルクラブでは9割で定期的、1割で不定期に読み聞かせを実施している。</p> <p>◆図書館では、コロナ対策（会場変更・不定期・時短・少人数等）を講じて、小学生向け（参加者641名）のおはなし会を実施したが、不定期だと定着が難しく、物語の世界に集中しづらい様子が見られた。今後はコロナ前の実施方法に戻し、参加しやすく、本を身近に感じてもらえるよう、工夫したい。</p> <p>◆地域貸出文庫では、読み聞かせをする館が16→20館/28館へ増えた。</p>	○
③読書時間の確保	達成状況
<p>◆多くの小・中学校で朝夕などに読書時間を確保しているが、時間数が少ない学校や読書時間をなくしている学校もあるため、読書時間の確保が課題となっている。</p>	○
④読書活動の促進	達成状況
<p>◆小学生読書リーダーを養成するため、主に5年生を対象として、夏休みにまどかぴあでの司書体験や読み聞かせ・ポップ作成の実習と発表などの基礎講座3回を実施した。そのほか、2月にふるさと館での活動展示や交流会及び実践発表を行い、受講生や学校司書の満足度は高いものの、受講時の負担軽減や小学校での読書リーダーの活動環境の整備等が課題となっている。</p> <p>◆小・中学校では、各校で読書リーダーや図書委員等を中心に、独自の読書推進活動が行われた。時間の確保やコロナの影響により、大きなイベントは難しかったが、ポスター等で「子ども読書の日」や「読書週間」を周知する等工夫した学校もあった。コロナの影響による活動制限が緩和されるなかで、引き続き児童・生徒の自主的なイベント企画や活動を積極的に支援していく。</p> <p>◆学校図書室では、支援が必要な子どもに対し、読み聞かせや図書室の利用等に関する支援のほか、関係機関と連携し、発達や特性に応じた選書を継続して実施していく。</p> <p>◆図書館では、おすすめ本のリストと合わせて利用案内を全ての新1年生に配布している。また「子ども読書の日」を含む4/16～5/8に図書館子どもまつりを開催し、読破した本のジャンルによってビンゴをする「図書館deビンゴ」（参加者数：166人）や、ボランティアと協働で「わくわくおはなしひろば」（参加者数：164人）を実施した。初の試みとしてブックトークの回も設けた。また「図書館へようこ！2022年秋×読書週間」を実施し、お楽しみ袋を提供したところ、想定以上に反響があった（一般40袋、児童40袋貸出）。そのほか、ヤングアダルトコーナー充実のため、ヤングアダルト資料を新たに197冊収集した。</p> <p>◆地域では、地域貸出文庫やコミュニティセンター等での読書活動推進イベント等を推進していく。</p>	○
⑤読書目標の設定	達成状況
<p>◆多くの小・中学校で読書目標を設定したり表彰を行ったりしているが、特に高学年以上の不読者を減らすことが課題である。引き続き、イベント等を通して図書室や本に関心を持ってもらえるように働きかけを行っていく。</p>	○
⑥調べ学習の促進	達成状況
<p>◆図書館では児童向けパスファインダーとして「自由研究ひらめきカード」を令和3年度より発行している。令和4年度は新たに4種類発行し、全部で13種類となった。</p> <p>◆図書館から学校への調べ学習支援として、学校の貸出傾向を分析した資料収集を行うとともに、授業用資料を追加購入し充実させた。</p> <p>◆ほとんどの学校図書室に新聞を配架している。授業に取り入れている学校がある一方で、認知度が低くあまり読まれていない学校や子ども向け新聞を設置していない学校があるため、子ども向け新聞の全校配架や図書館だより等での周知を行っていく。</p>	○
⑦保護者への啓発	達成状況
<p>◆ほとんどの学校図書室で図書館だよりを発行している。学校の掲示板やホームページも活用しながら保護者への啓発を継続していく。</p>	○

**C 評価**

**推進委員会  
評価**

◎期待以上  
○期待どおり  
△もう少し

◆全ての子どもたちと本との出会いのためには、学校での取組が重要であり、多くの学校で読み聞かせや朝読書等に取り組みられているものの、学校によって取組状況に差が生じている。どの学校においても読書に関する取組を大事にもらえるよう、呼びかけが必要。

◆学校司書や図書委員会と協力して読書啓発に取り組んでいる学校でも、読書時間の確保が課題となっている。特に中学生になると、なかなか時間が取れない現状があるため、検討が必要。ブックトークは子どもの意識を変える力がある。ぜひ市内でも広げていってほしいが、実施するのはなかなか難しい。ブックトークを実践したい学校司書がいる場合、図書館のブックトークボランティア等から教えてもらえる場があると良い。

◆本での調べ学習は、きちんと校正を経て出版されている本を実際に見て、使いこなせるようになるための手法である。そのうえで、誤った情報を鵜呑みにすることがないように、インターネットで検索した情報が正しいのか信用できるのかを判断する力が養われていく。今後も継続してほしい。

**検討が  
必要な事項**

- ◆学校での読み聞かせの推進（実施主体：市）
- ◆中学生に対する読書活動推進（実施主体：市、図書館）
- ◆ブックトーク実施方法（実施主体：市、図書館）

**A 改善**

**改善に向けた  
取組等**

- ◆市は、小・中学校に対して年度ごとに本計画に掲げる取組の説明及び実施呼びかけを行っていく。
- ◆図書館では、ヤングアダルトコーナーの充実を図るほか、図書館ホームページでのヤングアダルトページの公開を予定している。今後は図書館の公式Instagramを活用し、中高生に向けた情報発信等も行っていく。
- ◆ブックトークに関する相談があった場合は、図書館のブックトークボランティアの派遣や講習会の実施など読書活動の推進を図っていく。

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(3) 高校生以上の学生			
施策の方向性	高校や大学等に通う学生時代は、将来や自分の人生について特に考えをめぐらせる時期であるとともに、読書から離れやすい時期でもあります。学生が読書に興味を持ち、必要な情報を得たり今後のライフスタイルの参考にできる本と出会えるよう、積極的な情報発信及び支援を行います。また、学生の読書率を高めるため、読書の魅力を共有できる仲間との出会いをつくる取組を行います。			
主な取組	①本の紹介			
	②読書活動の促進			
	③調べ学習の促進			
成果指標	1か月の読書率	策定時点	目標値(R9)	
		77.8%	80.0%	
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	おすすめ本や新着情報の提供	年間発信回数	4	4
主な取組の実施状況及び今後の方針	①本の紹介		達成状況	
	◆図書館ではイベント情報やおすすめ本の紹介等を掲載した情報誌を発行しており、中高生など10代を対象として「わいわいぱらら」を発行し(年4回発行※220部/回)、読書活動の手掛かりとして、刊行ごとに時節や季節感を意識した書評を中心に構成するとともに、担当者の実体験をもとにしたテーマを設け、読者が紙面をより身近に感じる工夫を行った。また、図書館ホームページにおいてイベント等の告知や実施報告、情報誌のバックナンバーを見ることができるようになっている。		※令和4年度は計画対象外	
	②読書活動の促進		達成状況	
	◆図書館で、施設見学122名、職場体験12名の受入した。今後申込数の回復が予想されるため、引き続き受入していく。また、ヤングアダルトコーナーの充実のため、ヤングアダルト資料を新たに197冊収集した。		※令和4年度は計画対象外	
◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	③調べ学習の促進		達成状況	
	◆図書館では学校の貸出傾向を分析した資料収集を行っているほか、しらべものカウンターでレファレンスサービスとして資料や情報を見つける手伝いをしている。また、図書館ホームページでレファレンス事例をまとめたデータベースを公開している。		※令和4年度は計画対象外	
C 評価				
推進委員会評価	特に意見等はなし。 なお、市内にある筑紫中央高校では、10分間の朝読書のほか、クラスごとの貸出冊数を掲示している。また、何を read したらいいのか分からない生徒のために、学校司書や図書委員が本を選んで各クラスに置く等の取組を行っている。新校舎になって図書館もリニューアルされたが、利用者が増えていないため、今後はInstagram等のSNSを活用して図書館情報を発信したいと考えている。今後、高校生以上の学生に対する取組を検討する際の参考にしてほしい。			
検討が必要な事項	なし			
A 改善				
改善に向けた取組等	図書館では、1-(2)と同様、ヤングアダルトコーナーの充実を図るほか、図書館ホームページでのヤングアダルトページの公開を予定している。今後は図書館の公式Instagramを活用し、中高生に向けた情報発信等に取り組んでいく。			

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(4) 社会人			
施策の方向性	仕事や子育て等、ライフステージに応じて読書に親しめるよう、市民のニーズを把握し、様々な本との出会いの場を提供するとともに、日常生活における課題解決等に役立てられるよう支援します。			
主な取組	①読書活動の促進			
	②生涯学習の促進			
成果指標	読書が好きな人の割合	策定時点	目標値(R9)	
		79.6%	82.0%	
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	パスファインダーの発行	発行ジャンル数	—	—
主な取組の実施状況及び今後の方針  ◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	①読書活動の促進		達成状況	
	◆図書館では、現在社会人に特化したイベント等は行われていないが、令和4年度は、中学生以上を対象に、県立図書館からの協力のもとボードゲーム大会を実施し20名程度が参加した。今後は、市民が参加できるイベントを検討・実施していく。また、複合施設であることを活用し、イベントに関連した本の紹介を積極的に行っていく。		※令和4年度は計画対象外	
	②生涯学習の促進		達成状況	
◆図書館のしらべものカウンターでレファレンスサービスとして資料や情報を見つける手伝いをしている。また、図書館ホームページでレファレンス事例をまとめたデータベースを公開している。また、しらべものをするときの道案内資料として、テーマごとに調べ方や基本的な図書資料及びWeb情報等を紹介するパスファインダーを令和7年度からの発行に向けて準備を進めている。 ◆今後、ふるさとラボを活用した学習支援を推進していく。		※令和4年度は計画対象外		
C 評価				
推進委員会評価	◆社会人にとっては、図書館だけでなく地域で本を気軽に借りられるようにすることも考えた方が良い。移動図書館も運行しているが、特に最も身近な読書の場である地域貸出文庫等の充実が重要。 ◆図書館では、生活や仕事に必要な情報の収集や、疑問を解決する手助けとなるような資料の充実を図る。乳幼児向けおはなし会でも、読書につながるよう保護者に向けた育児書等の紹介を引き続き行っていく。			
検討が必要な事項	◆地域貸出文庫の充実(→2-(1)③で取り組む) ◆保護者への読書推進			
A 改善				
改善に向けた取組等	◆市では、地域貸出文庫の充実に加え、社会人が図書館の本を手に取りやすくなるよう取り組みの検討を進める。 ◆図書館では乳幼児向けおはなし会で、絵本だけでなく保護者に向けた育児書の紹介等を行っている。引き続き、保護者の読書に繋がるよう紹介内容の充実を図っていく。			

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(5) 高齢者			
施策の方向性	高齢者が本に親しむため、利用しやすい環境づくりやサポートに取り組むとともに、読書を通じた学びやボランティア活動等への参加を促進する取組を行います。			
主な取組	①読書活動の促進 ②生涯学習の促進			
成果指標	読書が好きな人の割合	策定時点	目標値(R9)	
		80.6%	83.0%	
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	はつらつセカンドライフコーナーの資料充実	年間受入冊数	187冊	150冊
主な取組の実施状況及び今後の方針  ◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	①読書活動の促進		達成状況	
	◆図書館でははつらつセカンドライフコーナーの充実のため、高齢者向け資料を新たに187冊収集した。引き続き資料の充実を図っていく。また、高齢者関連団体等と連携した本の紹介や、市で実施している講座などで図書館資料の利用等についても、今後取り組んでいく。		※令和4年度は計画対象外	
	②生涯学習の促進		達成状況	
	◆図書館のしらべものカウンターでレファレンスサービスとして資料や情報を見つける手伝いをしているほか、しらべものをするときの道案内資料として、テーマごとに調べ方や基本的な図書資料及びWeb情報等を紹介するパスファインダーを令和7年度からの発行に向けて準備を進めている。 ◆今後、ふるさとラボを活用した学習支援や、読書ボランティアへの参加呼びかけ等を推進していく。		※令和4年度は計画対象外	
C 評価				
推進委員会評価	◆最近“大人のための読み聞かせ”が注目されている。高齢者や目が見えづらい、疲れやすいという人にも喜ばれるようだ。 ◆昨年度、区のシニアクラブでも大人向けの読み聞かせを実施されており、読み聞かせをきっかけに会話が弾んでとても盛り上がっていた。子どもだけでなく高齢者をはじめとする大人向けの読み聞かせも広げていってはどうか。身体的に自分で本を読みにくい人や、読む気になれない人にとっても良い機会になる。			
検討が必要な事項	◆大人向けの読み聞かせ等の検討(実施主体:市、図書館、地域等)			
A 改善				
改善に向けた取組等	◆大人向けの朗読や語り等の企画を検討していくほか、シニアクラブと連携した広報誌でのおすすめ本の紹介等を実施していく。			



大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(6) 全世代共通			
施策の方向性	市民の読書意欲を高めるため、市と図書館が連携し、これまでの広報活動に加え、インターネット及びSNSを活用した情報発信に取り組み、市民の主体的な読書を支援していきます。			
主な取組	①読書活動の促進			
	②本の紹介			
	③情報発信の強化			
成果指標	市民の図書館の新規利用登録者数	策定時点	目標値(R9)	
		1,458人	1,800人	
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	レファレンスサービスの充実	データベース件数	101件	110件
	特集コーナーの充実	テーマ数	182	150
	ホームページやSNS等を活用した情報発信	年間発信回数	91回	85回
主な取組の実施状況及び今後の方針	①読書活動の促進		達成状況	
	◆図書館のしらべものカウンター及び児童カウンターでレファレンスを受付している(レファレンス件数:7,967件※うち児童カウンターの件数:738件)。児童カウンターではなく、しらべものカウンターに尋ねにくる子どもが多かったため、今後は児童カウンターを積極的にPRしていく。 ◆図書館のホームページでレファレンスデータベースを公開している。 ◆図書館では、読書週間事業として「図書館へよう!!2022年秋」を実施した。児童文学作家の杉山亮氏を招き、ものがたりライブと講演会を行った(ものがたりライブ:参加者94名、講演会:参加者30名)。大人の集客が難しいため、今後は対象年齢に合わせた情報発信方法等を見直していく。		○	
	②本の紹介		達成状況	
	◆図書館の児童コーナーでは絵本の特集を季節ごとに1回、プチ展示を月2~3回、読み物・実用書を月1回、季節の詩の展示を月1回、ヤングアダルトコーナーでは月1回、また一般文学や実用など大人向けの資料特集、展示等も定期的に入替を行っている。特集コーナーは貸出にも繋がるため、今後もテーマを工夫しながら継続していく。 ◆図書館では、しらべものカウンターや児童カウンターにて各世代に対応したレファレンスを行っている。また、世代に合わせた情報誌を発行し、おはなし会やイベント情報のほか、おすすめの本を紹介している。		○	
◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	③情報発信の強化		達成状況	
	◆図書館ホームページにおいてイベント等の告知や実施報告、情報誌のバックナンバーを見ることができるようになっている。今後は、ホームページはインターネットの即時性を活かした情報公開等をより早く、正確に行っていく。 ◆図書館ではおはなし会やイベント情報、おすすめ本の紹介等を掲載した情報誌を発行しており、一般利用者を対象とした「パララ」を年6回(1,500部/回)発行した。 ◆今後は、まどかびあ情報誌や情報の森を活用した情報発信、市と図書館が連携した地域情報の発信、市広報を活用した読書推進事業等を実施していく。		○	

### C 評価

推進委員会  
評価

◆図書館では現在ホームページでの情報発信しか行えていないが、色々な人に見てもらえるよう、SNSなどでの情報発信等も考えていく。インスタグラムなどは、映像やコメントがついて、わかりやすい。また、#（ハッシュタグ）をつけることで関連情報も見ることができる。若い世代ではLINEよりも、インスタグラムやTikTokを使う人が多い。そういった手段を取り入れると、若い世代にも情報が届きやすいかもしれない。

検討が  
必要な事項

◆SNSでの情報発信の検討（実施主体：図書館）

### A 改善

改善に向け  
た取組等

◆図書館では公式インスタグラムを活用し、情報発信を行うとともに、周知にも力を入れていく。

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	2 読書に親しむ環境づくり			
施策	(1) 身近な読書活動の場の充実			
施策の方向性	これまで読書に興味のなかった市民や図書館を利用できなかった市民も、気軽に読書を楽しめる環境の整備に取り組みます。そのため、図書館だけでなく市内の諸施設との連携を深め、地域の読書の場のあり方を見直すとともに、それぞれの魅力を高め、効果的な読書推進を図ります。			
主な取組	①図書館の充実	②学校図書室の充実		
	③地域貸出文庫の充実	④コミュニティセンターのコーナー充実		
	⑤気軽に読書・調べ学習できる場の充実	⑥移動図書館の活用促進		
	⑦本を届けるサービスの実施	⑧イベントの実施		
	⑨電子図書館サービスの導入・運用			
成果指標	図書館の利用者満足度		策定時点	目標値(R9)
			79.9%	83.0%
成果指標	地域貸出文庫の年間貸出冊数			
			8,258冊	8,400冊
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	地域貸出文庫の図書資料の充実	年間購入冊数		1400冊
	コミュニティセンターの図書資料の充実	年間新規蔵書数		100冊
	移動図書館のイベント等への出張	年間出張回数	—	—
主な取組の実施状況及び今後の方針	①図書館の充実		達成状況	
	◆キッズタイム事業（乳幼児連れの保護者など、多様な利用者が気兼ねなく図書館を利用できるよう、他の利用者に温かく見守るよう呼びかける事業）など実施等、誰もが気兼ねなく利用できる雰囲気づくりを推進していく。		※令和4年度は計画対象外	
	②学校図書室の充実		達成状況	
	◆学校図書室では「大野城市立学校図書館図書選定基準」に基づき、一貫した選書基準のもと図書資料等を購入している。また、多くの学校で児童・生徒のリクエストが多い本や教科書で紹介されている本等を計画的に購入しているが、予算の減少と学級数の増加等により、図書標準冊数を下回らないようにするために老朽化や情報が古い資料の除籍が進まない学校もあり、資料の刷新が課題となっている。限られた予算のなかで図書標準冊数を保ちつつ、資料の廃棄や、利用が見込まれる資料の購入等を計画的に進めるほか、まどかびあ図書館の団体貸出等を有効活用していく。 ◆現在、各学校図書室には学校司書用の校務用端末1台、カウンターにある貸出用端末1台が設置されているが、児童や生徒が自ら学校図書室やまどかびあの蔵書検索をできない状況である。児童・生徒用の検索端末の配備希望もあっており、今後は図書館システムの連携の必要性やタブレットの活用等の検討を進めていく。		○	
◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	③地域貸出文庫の充実		達成状況	
	◆各区への指定管理者交付金を活用し、地域貸出文庫の資料購入やイベントが実施されているが、文庫室の設置状況や活動にばらつきがあることから、事例の紹介等、各区や地域貸出文庫連絡協議会と連携しながら、地域貸出文庫の充実を図っていく。 ◆市のホームページに掲載していた各地域貸出文庫の活動状況を更新し、活動風景や文庫室などの写真等を掲載することで市民が親しみを持ち、認知度向上に取り組んだ。今後も随時、更新していく。 ◆図書館の団体貸出やリサイクル本の活用のほか、図書司書による選書、本の修理や管理等に対する相談・支援などの利用促進の働きかけを行っていく。		○	

④コミュニティセンターのコーナー充実	達成状況
<p>◆全てのコミュニティセンターの学習コーナーまたは子どもコーナーに図書を設置している。令和4年10月より一時中断していた図書設置を再開したが、コロナの影響により特に子どもコーナーの貸出件数は大幅に減少している。コミュニティセンターにより状況は異なるが、市で積極的な取組を推進しておらず、図書の入替が積極的に行われていないため、図書の劣化が目立つほか新鮮味がない状態になっている。今後は、まどかぴあ図書館のリサイクル本の活用や寄付を募る等、魅力ある図書が増えるよう入替を行っていくとともに、コーナーや貸出について積極的にPRしていく。</p> <p>◆これまで読書活動に特化した事業は実施していなかったが、今後は読み聞かせ会など、子どもたちに読書の楽しさを伝える事業の実施を検討していく。</p>	△
⑤気軽に読書・調べ学習できる場の充実	達成状況
<p>◆心のふるさと館では、目加田アーカイブや大野城ラボ等があることから、今後、図書館と連携した読書環境の整備を進めていく。</p> <p>◆保育所（園）や幼稚園では年間平均約60冊の絵本を購入・整備し、自由に絵本を手にとれる環境をつくるなど、子どもが絵本を楽しむ工夫が行われている。引き続き、全ての園で実施できるよう取り組んでいく。</p> <p>◆ランドセルクラブでは8割で読み聞かせが行われているが、蔵書数の増減に差が生じているため、図書館のリサイクル本の活用等、蔵書の充実を図っていく。</p> <p>◆れいわ子ども情報センターでは、3階のひろば事業実施に絵本コーナーを設置するほか、1階の親子サロンにも常設の絵本コーナーを設置している。配架する本の選定が課題であるが、定期的に本の入替を行いながら本を身近に感じてもらえるよう工夫していく。</p> <p>◆子ども療育センターでは、療育事業の自由遊びの時間などに絵本が読めるようフリースペースに絵本を配架しており、絵本に親しむ親子が複数いた。今後も絵本の配架と読み聞かせを継続し、子どもの発達を促し、親子のコミュニケーションツールとして読書を活用していく。窓口等でも周知をしていく。</p> <p>◆大町公園とふるかわ公園に文庫を設置し、利用者アンケートでは約8割が満足と回答している。今後も多くの人に楽しんでもらえるよう、色々な世代のニーズに応じた本を揃えていく。</p>	○
⑥移動図書館の活用促進	達成状況
<p>◆移動図書館は、コミュニティセンターや公民館、公園等の27箇所のステーションを巡回している。令和4年度の稼働日数は212日で、貸出人数は4,328人、貸出冊数は23,411冊であった。また、令和4年度より南コミュニティセンターへの日曜巡回を開始したところ、利用者が多く好調である。一方、北地区の利用が落ち込んでいるため、需要のある資料を検討し、利用の回復に努めたい。</p> <p>◆通常のステーションへの巡回以外に、まどかフェスティバルなどの市イベントで移動図書館を展示し説明等を行った。今度もイベント等への出張等を検討していく。</p>	○
⑦本を届けるサービスの実施	達成状況
<p>◆図書館では令和4年4月から図書館資料の郵送貸出サービスを開始した。今後も引き続き、図書館から遠方にお住まいの市民へのサービスを検討していく。</p> <p>◆全てのコミュニティセンターに返却ポストを設置し、図書館の本を返却できるようにしている。コミュニティセンターによって冊数のバラつきはあるもののいずれも増加傾向にある（令和4年度利用冊数21,289冊※内訳は南コミ12,135冊、中央コミ6,178冊、北コミ1,350冊、東コミ1,626冊）。</p>	○
⑧イベントの実施	達成状況
<p>◆市では令和4年度、南・中央コミュニティセンターにて移動図書館の巡回に合わせて読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行い、本と出会う機会の提供及び人と人の交流の創出を目的とした「読書ひろば」を実施した。今後は、コミュニティセンター等で本に親しむイベントの実施を検討していく。</p>	※令和4年度は計画対象外
⑨電子図書館サービスの導入・運用	達成状況
<p>◆令和4年度は電子図書館サービスの業者選定、構築等を進め、令和5年4月からしあわせ電子図書館サービスを開始した。今後も粕屋町、志免町、新宮町と連携しながら運用していく。</p>	※令和4年度は計画対象外

### C 評価

推進委員会  
評価

- ◆小さい子どもがいると周囲の影響等を考え、図書館へ行くことを遠慮しがちになるため、図書館でキッズタイム事業のような取組が実施されると心配も和らぐ。良い取組みになると思う。
- ◆地域貸出文庫は、区によって実施状況は異なるものの、全での区で運営されているのは全国的に珍しい。それにも関わらず、知らない人が多いのはもったいない。もっと多くの人に知ってもらうためには、他事業との抱き合わせ等の違うアプローチが必要。
- ◆コミュニティセンターでは、令和5年度から色々な取組を実施されている。今後も継続されることを期待している。寄付の募集は、効率的な方法を検討してほしい。

検討が  
必要な事項

- ◆キッズタイム事業の実施に向けた検討（実施主体：図書館）
- ◆地域貸出文庫の充実（→1-（4）より）
- ◆地域貸出文庫の周知方法（実施主体：市、図書館、地域）

### A 改善

改善に向け  
た取組等

- ◆図書館では、今後、キッズタイム事業の実施に向けた具体的な検討を進める。
- ◆市では、地域貸出文庫連絡協議会や区長会と連携しながら、地域貸出文庫の充実に向けた取組のほか、より多くの市民に利用してもらえるよう周知方法等について検討していく。

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	2 読書に親しむ環境づくり			
施策	(2) 資料の充実と効率的な活用			
施策の方向性	「大野城まどかびあ図書館資料収集方針」及び「大野城まどかびあ図書館資料選定基準」に基づき、各世代のニーズに応じた図書館の資料の充実を図ります。 また、図書館のリサイクル本や団体貸出を活用し、市内各施設の資料の充実に取り組みます。			
主な取組	①資料の充実			
	②団体貸出の促進			
	③図書のリサイクル			
成果指標	図書館の貸出冊数（※電子図書館の貸出を含む）	策定時点	目標値(R9)	
		783,794冊	793,000冊	
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	図書館でのリクエスト受付	リクエストに対して提供した割合	91.0%	90%以上
主な取組の実施状況及び今後の方針  ◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	①資料の充実		達成状況	
	◆図書館で所蔵している資料は図書館のホームページや館内検索機で予約を受付しているほか、未所蔵の資料はリクエストカードに応じて、購入または近隣図書館からの借受等により可能な限り提供している。 ◆学校図書室においても、多くの学校で児童・生徒のリクエストを考慮した選書を行っている。 ◆令和5年4月から開始した電子図書館サービスを活用し、今後は電子コンテンツの充実を図るとともに、独自資料の電子化による提供等にも取り組んでいく。		○	
	②団体貸出の促進		達成状況	
	◆図書館では市内の保育所(園)や幼稚園、学校等に対して図書・紙芝居・布の絵本等の団体貸出を実施している(令和4年度は、学校:14校9,776冊、その他:35団体5,433冊、備品貸出件数240件、備品貸出点数(大型絵本等)676点)。れいわ子ども情報センターと絵本ライブラリーへ団体貸出を行っている(令和4年度は年6回(30冊/回)※絵本ライブラリーは引き続き中止となったため、令和4年度も未実施)。延滞等が目立つ団体があるため、利用方法の周知を徹底していく。 ◆学校へ配本する資料は内容を見直し、小学校から要望の多かった特別支援学級向けや調べ学習で使用する資料を追加購入し充実を図った。今後も各団体のニーズを把握し、資料や備品の充実を図っていく。		○	
③図書のリサイクル		達成状況		
◆図書館では年3回除籍資料の優先配布を実施しているが、優先配布に参加する施設が減ってきており廃棄数が増えている(令和4年度配布冊数797冊、参加施設25)。除籍資料の有効活用のため、要望があれば企業や団体の参加も検討していく。		△		
C 評価				
推進委員会評価	問題なく実施されている。取組によって課題は見受けられるものの、各主体で今後の方針も考えられている。ぜひ記載されているとおりに継続して取り組んでほしい。			
検討が必要な事項	なし			

A 改善

改善に向けた  
取組等

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	2 読書に親しむ環境づくり			
施策	(3) 読書バリアフリーの推進			
施策の方向性	誰もが利用しやすい図書館を目指し、館内設備やバリアフリー資料等の充実、及び支援が必要な人に対するバリアフリーサービス、多文化サービスの拡充を図ります。また、より多くの人のサービス利用を促進するため、周知の強化を図るとともに、サービスを提供・支援する人のスキル向上に取り組んでいきます。			
主な取組	①館内設備の充実			
	②バリアフリー資料の充実			
	③バリアフリーサービスの充実			
	④多文化サービスの充実			
成果指標	バリアフリーサービスの認知度	策定時点	目標値(R9)	
		17.0%	20.0%	
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	バリアフリー資料の充実	バリアフリー資料の蔵書数	2,393冊	2,030冊
	外国語コーナーの充実	外国語資料の蔵書数	1,912冊	1,920冊
主な取組の実施状況 及び 今後の方針  ◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	①館内設備の充実		達成状況	
	◆図書館ではルーペやリーディングトラッカーのほか、据置型拡大読書器の貸出を行っているが既存の機器が古くなり操作が複雑であることから令和5年度に新たな携帯型拡大読書器への更新、及び助聴器、折り畳み式図書用カート、翻訳機等用iPadの購入を行い、館内設備の充実を図っていく。		※令和4年度は計画対象外	
	②バリアフリー資料の充実		達成状況	
	◆図書館では新たにLLブックやバリアフリー絵本を購入した。あまり認知されておらず対象者の利用に繋がっていないことから、より利用者の目に触れやすい位置へ移設したり、学校配本として特別支援学級へ貸出した。今後も積極的な資料の充実と対象者やその支援者等へのPRを行っていく。 ◆そもそもの刊行数が少ないため、必要に応じて、県立図書館の資料等を活用しながら、各利用者のニーズに応じた提供を行っていく。		○	
	③バリアフリーサービスの充実		達成状況	
◆図書館ではバリアフリーサービスとして、特別支援学級等に対する読書補助具や布の絵本等の備品貸出、施設見学の受入れ、工作付きおはなし会を実施している。対面朗読についてはこれまで利用実績がなく実践経験のある職員がいない。バリアフリーサービス全体の認知度が低いため、対象者へ情報が届くよう周知を強化していく。 ◆市では、障がい福祉サービスとして視覚障がいのある人に対して日常生活用具の給付事業を行っているが、読書支援ツール(点字図書、活字文書読上げ装置、拡大読書器等)の令和4年度給付件数はなかった。ボランティア団体と連携して、令和4年度は朗読の会「文鳥」1件(3冊)、虹の会1件(12冊)、点訳サークル「あゆみの会」0件の資料作成依頼を行った。		△		
④多文化サービスの充実		達成状況		
◆図書館の多文化サービスコーナーに対訳で書かれた資料や外国語資料、児童コーナーに外国語絵本を配架しており、今後も資料の充実を図っていく。またコミュニケーションボードを導入し、必要に応じて活用している。令和5年度に翻訳アプリの導入と英語・中国語・韓国語での利用案内の更新を行う。		※令和4年度は計画対象外		



C 評価

推進委員会  
評価

問題なく実施されている。取組によって課題は見受けられるものの、各主体で今後の方針も考えられている。ぜひ記載されているとおりに継続して取り組んでほしい。

検討が  
必要な事項

なし

A 改善

改善に向け  
た取組等

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	3 読書ネットワークの充実			
施策	(1) まどかぴあを中心としたネットワークの推進			
施策の方向性	本の専門家である司書へ誰もが気軽に相談できる窓口を設置し、市民及び関係機関へ広く周知を行います。また、市民の読書活動を推進するために、ICTの活用等、図書館と学校、地域の連携のあり方を検討していきます。			
主な取組	①相談窓口の充実			
	②時代に即した連携のあり方の検討			
成果指標	相談窓口・レファレンス利用者満足度	策定時点	目標値(R9)	
		—	80.0%	
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	相談窓口及びレファレンスサービスの活用促進	年間受付件数	7,967件	6,000件
主な取組の実施状況及び今後の方針  ◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	①相談窓口の充実		達成状況	
	◆図書館のしらべものカウンター及び児童カウンターでレファレンスを受付している(レファレンス件数:7,967件※うち児童カウンターの件数:738件)。この図書館利用者向けレファレンスサービス以外にも、学校、地域貸出文庫、コミュニティセンター、読書ボランティア等からの選書支援や読書活動に関する相談対応を行っている(令和4年度は地域貸出文庫連絡協議会の研修の一環として図書修理に関する研修実績あり)が、あまり認知されていないのが現状である。今後は気軽に相談できる場として、周知を強化し活用促進を図っていく。		※令和4年度は計画対象外	
	②時代に即した連携のあり方の検討		達成状況	
	◆図書館と学校図書室は、団体貸出と「まどかぴあ図書館・小中学校図書室連携部会」を中心とした連携を行っている。システムについては現在それぞれ異なるものを使用しているため連携は行っていない。今後は、子どもが身近な場所で読書に親しめるような環境づくりを目指し、システムや配送を含めた連携のあり方を検討していく。 ◆学校図書室では蔵書管理や貸出・返却、学校間での相互貸借にシステムを活用し業務の効率化を図っているが、システムやバーコードの劣化等によるエラーが多く読込みに時間がかかったり、うまく処理できていなかったりすることがあるため課題となっている。		※令和4年度は計画対象外	
C 評価				
推進委員会評価	図書館のしらべものカウンターは職員が常駐できているが、児童カウンターは土日祝日と夏休みしか常駐できていない。ボランティアの方々の相談対応もゆっくり児童カウンターで伺いたいが、常駐できていないため難しい。人員不足で児童カウンターがうまく活用できていない状況であるため、できるだけ早く常駐できるよう整備していく。			
検討が必要な事項	◆児童カウンターへの職員常駐に向けた事業等の整理(実施主体:市、図書館)			
A 改善				
改善に向けた取組等	◆まどかぴあ図書館の司書の業務について、大野城市民読書活動推進計画に即した事業となるよう見直しと整理を行っていく。また、来館者がカウンターで相談しやすい環境を整える。			

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	3 読書ネットワークの充実			
施策	(2) 読書活動を支える人の活動の活性化			
施策の方向性	学校及び保育所(園)・幼稚園等において子どもたちが、充実した読書活動が行えるように、活動を支える人材のスキルの向上を図ります。 また、読書ボランティアについては、人材の発掘及び育成を継続するとともに、活動の場の創出のほか、活動が縮小している団体等を支援する体制づくりを行い、ボランティアの活動の活性化に取り組みます。			
主な取組	①図書館司書のスキルアップ		②学校司書活動の充実	
	③保育士・幼稚園教諭等のスキルアップ支援		④読書ボランティアの育成	
	⑤読書ボランティア人材の発掘		⑥読書ボランティア活動の活性化	
	⑦読書ボランティアの交流の場と協力体制づくり			
成果指標	読書ボランティア延べ活動人数		策定時点	目標値(R9)
			520人	530人
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	各種読書ボランティア講座の実施	年間実施回数	10回	6回
	読書ボランティア情報交換会の実施	年間実施回数	1回	1回
主な取組の実施状況及び今後の方針	①図書館司書のスキルアップ		達成状況	
	◆国や県等からの研修案内は随時まどかびあへ情報提供している(令和4年度の参加実績:22件)。今後も継続していく。		※令和4年度は計画対象外	
	②学校司書活動の充実		達成状況	
	◆図書館と市が連携し「まどかびあ図書館・小中学校図書室連携部会」を年2回開催し、司書同士の活発な意見交換や情報共有がなされている。交流の場が少ないためか毎回時間切れとなっている。取組の一つとして秋の読書週間に合わせ、図書館と学校司書が協力して図書館情報誌「こぼらら」「わいわいぱらら」に学校司書のおすすめ本を掲載したスペシャル号を発行した。 ◆システムの操作研修を毎年行っているが、司書としての専門的な研修が求められている。今後もニーズを調査しながら連携部会や研修を実施していく。 ◆市民読書活動推進計画の策定に伴い、校長会にて計画の説明を行った。 ◆学校ボランティアとの連携は、3分の2の学校でボランティアによる読み聞かせやブックトークが実施されているが、コロナによる活動制限や活動時間の確保、学校司書の関わり方にばらつきが生じている。今後、連携に関する検討を進めていく。		○	
	③保育士・幼稚園教諭等のスキルアップ支援		達成状況	
◆国や県等からの研修案内は保育所(園)や幼稚園へ案内しているが、令和4年度はコロナの影響により、オンラインで参加している園もあつたが多くの園で研修会に参加できていない状況である。オンラインでの参加等を促進していく。		△		

◎期待以上  
○期待どおり  
△もう少し

	<p>④読書ボランティアの育成</p> <p>◆図書館ではボランティアの経験や目的に応じた講座を実施している。令和4年度は、読み聞かせ入門講座（全3回）47名、読み聞かせスキルアップ講座（全2回）45名、布の絵本製作ボランティア養成講座（全5回）65名を実施し、入門講座では5名、布の絵本製作ボランティア養成講座では4名の新規加入につなげることができた。入門講座は需要もあり毎年実施しているが、スキルアップ講座や「赤ちゃん向け」「ブックトーク」などの専門的な入門講座は、ボランティアのニーズがうまく合わず、開催が難しい。</p> <p>◆市では、ボランティアの活動充実と活性化を目的として、協力ボランティアを募集して企画や当日の運営に関わってもらい、スキルアップ講座として講演及びその内容を踏まえた意見交換を行った。令和5年度からは、ボランティア同士の交流を目的とした情報交換会へ移行していく。</p> <p>◆市では、国や県等から情報提供された研修案内や助成制度紹介をボランティア団体へ周知している。また、図書館や市が実施するイベントや研修案内を広報やボランティア団体へ通知するほか、読み聞かせボランティアへメール等で発信した。今後は、情報発信に加え、ボランティア同士や関係機関・団体との連携を強化し、情報共有できる機会を拡大していく。</p>	<p>達成状況</p> <p style="text-align: center;">○</p>
	<p>⑤読書ボランティア人材の発掘</p>	<p>達成状況</p>
	<p>◆市では市内で活躍する読書ボランティア等の情報を集約した「読書ボランティアへのおさそいチラシ」を発行しており、令和4年度も情報を拡充し、各所への設置やホームページへの掲載を行った。読み聞かせボランティアの新規登録にはなかなか繋がっておらず、団体によっては人材不足により活動に支障が生じている。今後は、イベントや講座等のなかで積極的なボランティア募集の働きかけていく。</p>	<p style="text-align: center;">△</p>
	<p>⑥読書ボランティア活動の活性化</p>	<p>達成状況</p>
	<p>◆市では読み聞かせボランティアの登録を受け付け、市内で読み聞かせを必要とする団体等への紹介を行う「読み聞かせボランティア登録・紹介制度」を実施している。令和4年度は市事業（1事業・2件）に協力いただいたが利用件数が少ないため、今後は登録者募集だけでなく、利用促進に取り組んでいく。</p> <p>◆図書館では令和4年度、布の絵本製作ボランティアの活動PRとして「第16回図書館子どもまつり」で布の絵本のあそび場を設置するほか「図書館へようこ!!2022年秋」でエプロンシアターの展示を行った。広報及び養成講座を経て会員数は増加に転じたが、技能や経験にばらつきがあり、経験の少ないボランティアからは指導者を求める声もある。今後は、経験の度合いに関わらずボランティア同士が協力して作品の完成を目指せるようなサポートや高齢のボランティアでも安心して活動できる環境整備に取り組んでいく。</p>	<p style="text-align: center;">○</p>
	<p>⑦読書ボランティアの交流の場と協力体制づくり</p>	<p>達成状況</p>
	<p>◆市が実施しているスキルアップ講座ではボランティア同士や学校司書や関係機関・団体で活動する人との交流する機会を提供できているが、講座以外でボランティア同士が交流できる場がないため、交流の場や連携機関が求められており、今後検討が必要な状況である。令和5年度からは「講座」を「情報交換会」と改め、ボランティアと協力しながら検討していく。</p>	<p style="text-align: center;">○</p>
<b>C 評価</b>		
<p>推進委員会 評価</p>	<p>◆図書館の入門講座は、参加しやすいように定員や参加回数等を検討してはどうか。</p> <p>◆読書ボランティアに限らず、色々なボランティアで若い世代の参加が減っているが、定期的な活動ではなく、インターネットで気軽に参加できる単発の活動は30~40代が増加傾向である。ボランティアセンターが紹介しているボランティアエントリーシステム等の活用も参考にしてほしい。</p> <p>◆現在活動中の読書ボランティア団体も、人員確保や研修等、多くの課題を抱えていることから、解決に向けた取組が必要。</p>	
<p>検討が 必要な事項</p>	<p>◆入門講座の実施方法の検討（実施主体：図書館）</p> <p>◆読書ボランティア団体の抱える課題解決に向けた取組の検討（実施主体：市、図書館等）</p>	
<b>A 改善</b>		
<p>改善に向け た取組等</p>	<p>◆入門講座に多くの方が参加しやすいよう、実施日や方法、回数等の見直しを行う。</p> <p>◆市では、図書館や読書ボランティアと連携して、各団体が抱える課題解決に向けた取組の検討を行っていく。</p>	

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項			
基本目標	3 読書ネットワークの充実		
施策	(3) 市民交流の創出		
施策の方向性	読書を通じて、人と人との交流が生まれる取組を実施していきます。		
主な取組	①市民が参加できるイベント等の実施		
成果指標	イベントの参加者数	策定時点	目標値(R9)
		4,828人	6,320人
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)			
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)
	イベントの実施	年間実施回数	119回
主な取組の実施状況及び今後の方針	①市民が参加できるイベント等の実施		達成状況
	<p>◆図書館ではおはなし会のほか子ども読書の日になんだ「図書館子どもまつり」や読書週間に合わせた「図書館へよう!!」等を実施している。</p> <p>◆市では令和4年度、南・中央コミュニティセンターにて移動図書館の巡回に合わせて読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行い、本と出会う機会の提供及び人と人との交流の創出を目的とした「読書ひろば」を実施した。今後は、コミュニティセンター等で本に親しむイベントの実施を検討していく。</p>		※令和4年度は計画対象外
◎期待以上 ○期待どおり △もう少し			
C 評価			
推進委員会評価	令和4年度は計画対象外であることから、特に意見等はなし。 今後は、記載されているとおり積極的に取り組んでほしい。		
検討が必要な事項	なし		
A 改善			
改善に向けた取組等			